

SSKS

2022. 12月号

No. 545

せんかわだより

～あるがままに あたりまえに～



障害者雇用、そのはじめの一歩に向けて。



10月26日。三鷹産業プラザにて「障がい者の就労を考えるつどい」を開催しました。テーマは「障害者雇用はじめの一歩～採用検討から職場定着までの流れと支援～」。これから障害者雇用を検討する企業を応援する仕組みと、はじめての雇用にとりくんだ企業の実践から、大切なポイントについて、皆様と共有しました。



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>

中小企業における障害者雇用を安心して進めていただくために

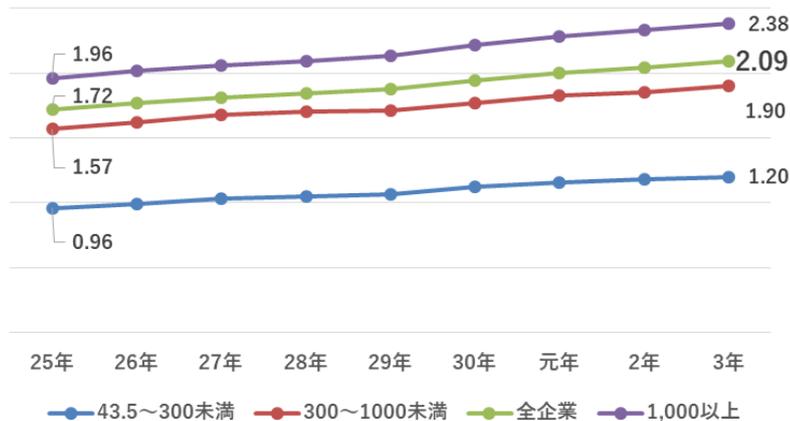
～雇用を応援する支援機関、企業。それぞれのとりくみから学ぶ～

去る10月26日（水）、三鷹産業プラザにて「障がい者の就労を考えるつどい2022」を開催いたしました。この“つどい”は武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹の共催による障害者雇用啓発のためのセミナーで、毎年秋頃に開催しています。昨年度から動画配信期間を設け、当日ご来場が難しい方にも、後日好きな時に動画でセミナーの様子をご覧いただけるようになりました（今年は11月14日より1カ月間を配信予定）。

今年度のテーマは「障害者雇用はじめの一步～採用検討から職場定着までの流れと支援～」です。これから障害のある方の採用を検討し始めるという段階の中小企業の方にフォーカスし、利用できる支援サービスや採用のポイント等について幅広く知っていただくことで、少しでも雇用に取り掛かっていただけるようになることをねらいとしました。

東京都内の中小企業における障害者雇用の実態

東京労働局のHPでは令和3年6月時点での東京都内における障害者雇用状況を確認することができます。



東京都内の民間企業における障害者実雇用率の平均は2.09%（法定雇用率は2.2%）とコロナ禍でありながら、わずかに上昇しました。しかし、実雇用率は従業員1,000人以上の大企業が全体を大きくけん引しており、中小企業における実雇用率はずっと横ばいの状況が続いています。現在の仕組みでは、勤務時間が週あたり20時間以上ということになれば「障害者を雇用している」とはみなされません。

しかし、今後週10時間以上～20時間未満で雇用される障害者も、雇用率に反映できる仕組みへと見直されることが予定されています。企業で障害者雇用が進みづらい要因のひとつには、「どのような仕事を任せられるかがわからない」ということがあります。また、「週10時間以上なら、業務の切り出しが可能かもしれない」と、障害者雇用を検討する企業が増えることが期待されます。

中小企業の雇用をサポートする障害者雇用ナビゲート事業

東京都の政策連携団体である公益財団法人東京しごと財団では「障害者雇用ナビゲート事業」を実施しています。この事業は「シル」「カンガエル」「タイケンスル」「ハジメル」そして「ツツケル」というステップに沿って、中小企業におけるはじめての障害者雇用のとりくみをサポートしています。そのステップからもわかるとおり、つまずきやすい雇用前の段階に対しても丁寧にアプローチされており、私たち就労支援センターにとっても学ぶべきノウハウをたくさんお持ちです。

つどいでは、障害者雇用ナビゲート事業において統括雇用ナビゲーターをされている甲田拓也氏にご登壇いただき、これまでの支援のエピソードも交えながら事業の説明をしていただきました。甲田氏からは、企業が行える支援内容の具体例を、三層に分けて整理したものをご説明いただきました。（下図）

- **赤色部分（支援の中心として）**
支援機関との連携を本人支援の中心とすること
- **黄色色部分**
比較的とりくみやすいもので、マニュアル化やフォロー体制の構築を通じて、声掛けや面談（対話）によりそれらの状況を本人に確認し、安心できる職場環境を整えていくこと
- **緑色部分**
フレックス勤務や休暇制度の見直しなどコストや就業規則の変更が発生する可能性。その分、導入することで大きな効果が見込まれる。

企業が行える支援内容の具体例



（甲田氏による発表スライドより）

支援機関との連携を中心とした企業の実践

まさにこの三層による支援を取り入れ、2名の障害のある方の雇用につなげた株式会社ウイットスタジオ様からもご発表をいただきました。ウイットスタジオ様は従業員150人ほどの、武蔵野市内で人気アニメーションの企画・制作を手掛ける会社です。ご登壇いただいた福崎氏、西岡氏のお話からは、障害者雇用におけるポイントがいくつか見えてきました。支援機関を活用し余裕を持って計画的にとりくんだこと、雇用前実習を実施して本人と業務の適性をはかったこと、そして、本人や担当部署の方との率直な対話を行ったことでした。それぞれへの負担が大きくなり過ぎないラインを確認しながら、慎重に、しかし



（左：西岡氏、右：福崎氏）

確かにとりくみを進めたことが、障害のある方が安定して就労継続している姿につながっているのだと感じました。

最後に、お二人からはこんなメッセージをいただきました。

「障害者雇用に対してネガティブなイメージを持たない方が良い。難しいものだという考えは、逆効果になってしまう。また、雇用後も慎重になりすぎず、距離感を大切にすることは、健常者と同じで、障害のある方でも、長く付き合っていくうえでは大事なこと。」

最後には、当日ご登壇いただいた皆様とトークセッションを行いました。そこでは、「採用面談のチェックポイント」「担当業務がなくなった時や、担当業務のレベル感について」「社内コンセンサスの取り方」など、事前にいただいた質問をベースにしてセッションを展開しました。どの質問も企業ご担当者から寄せられたもので、わかりやすくも熱意のある回答を発表者の皆様からいただきました。（つどいの様子をご覧になりたい場合は、武蔵野市障害者就労支援センターまでご連絡ください。）

来年も引き続き、障害者雇用における課題に対して具体的な解決策を提案できるような内容を取り上げ、皆様と学びを深めてまいりたいと思います。

（文責：武蔵野市障害者就労支援センターあいる センター長 山岡 誉）

第46次国会請願署名に ご協力をお願いします！

新型コロナウイルスの感染拡大がはじまってから、3年目の国会請願署名・募金運動です。新型コロナウイルスの感染拡大は収束の兆しが見えず、先行き不透明な日々が続いています。さらに物価高によって、作業所の仕事で使う材料の値上がり、生活の場においても毎日の食費や光熱費が上がっています。障害のある人の生活はますます厳しくなっています。きょうされんでは障害のある人が安心して暮らせる制度や施策を求めています。みなさまのご協力をお願い申し上げます。



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>

< 生活介護事業所 >

◆ 千川作業所	〒180-0011	武蔵野市八幡町4-28-13	TEL 0422(55)3826
◆ ワークイン中町	〒180-0006	武蔵野市中町2-6-5	TEL 0422(27)7519
◆ ななほしワークス	〒180-0022	武蔵野市境2-11-3-101	TEL 0422(38)8083
< 就労支援事業所 >			
◆ チャレンジャー	〒180-0023	武蔵野市境南町4-20-5	TEL 0422(30)3010
◆ ワークイン関前	〒180-0014	武蔵野市関前3-41-16	TEL 0422(37)6266
◆ 武蔵境ワーキングセンター	〒180-0023	武蔵野市境南町3-10-1	TEL 0422(33)1708
◆ 八幡作業所	〒180-0011	武蔵野市八幡町4-5-5	TEL 0422(27)8390
◆ 武蔵野市障害者就労支援センターあいる	〒180-0023	武蔵野市境南町2-5-8-102	TEL 0422(26)1855

< ショートステイ/ミドルステイ/自立生活体験事業 >

◆ 桜はうす・今泉	〒180-0021	武蔵野市桜堤1-5-1	TEL 0422(54)1187
◆ 井の頭はうす	〒180-0003	武蔵野市吉祥寺南町4-21-17	TEL 0422(46)7707

< 児童発達支援事業 > < 放課後児童健全育成事業 > < 放課後等デイサービス事業 >

◆ 千川おひさま幼児教室	〒180-0011	武蔵野市八幡町4-28-13	TEL 0422(51)4008
◆ 千川さくらっこクラブ			
◆ 千川さくらんぼクラブ	〒180-0011	武蔵野市八幡町2-5-3 北ホール1階	TEL 080(5458)9175

< 共同生活援助（グループホーム） >

◆ 天の臺寮	◆ 第一桜寮	◆ 第二桜寮	◆ 境南葵寮	◆ 吉祥寺泉寮	◆ 関前上水寮
◆ 相談支援事業所 せんかわ					

< 発行人 > 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 東京都世田谷区祖師谷3-1-17-102 TEL 03(6277)9611

< 編集人 > 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 東京都武蔵野市境南町4-20-5 TEL 0422(30)0022 定価 50 円